

日野市男女平等についての 市民意識アンケート 調査結果報告書

日野市 平和と人権課

調査の概要

市民の男女平等について意識の変化や実態を明らかにし、今後の男女平等施策および日野市男女平等行動計画の策定に向けた基礎資料を得るため、調査を実施するものです。

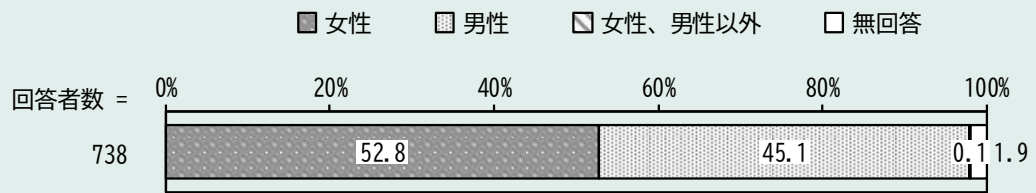
- | | | |
|---|------|--------------------------------------|
| 1 | 調査対象 | 日野市在住の 18 歳から 89 歳までを 2,000 人を無作為に抽出 |
| 2 | 調査期間 | 令和 6 年 7 月 30 日から令和 6 年 10 月 31 日 |
| 3 | 調査方法 | 郵送による配布・回収、WEB による調査 |
| 4 | 回収状況 | 有効回答数 738 人（有効回答率 36.9%） |

目次

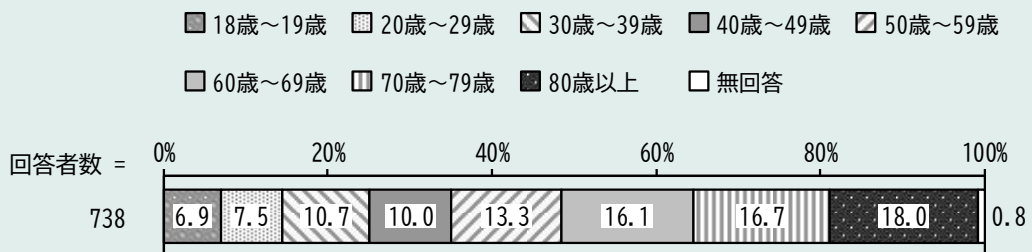
回答者属性	P 2
人権が尊重される社会づくり	P 3
あらゆる暴力の根絶をめざす	P 3
女性と男性があらゆる分野でともに参画できる環境づくり	P 6

回答者属性

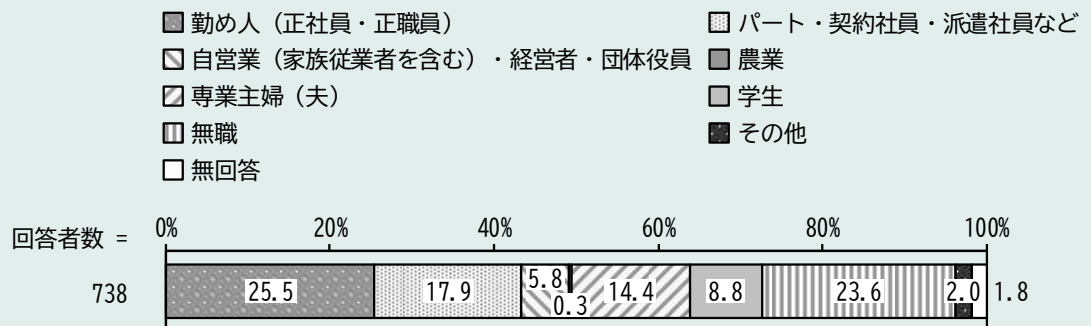
性別



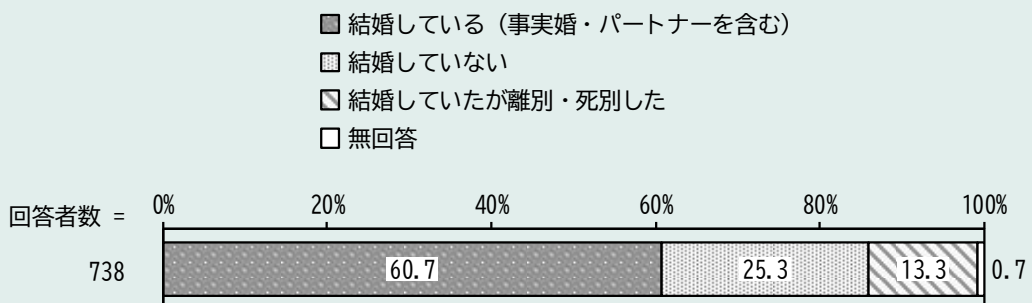
年齢



職業



結婚の有無



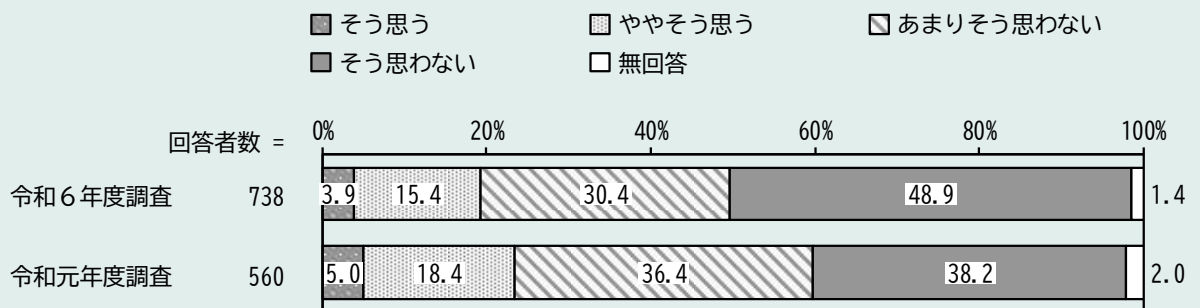
人権が尊重される社会づくり

日野市の現状

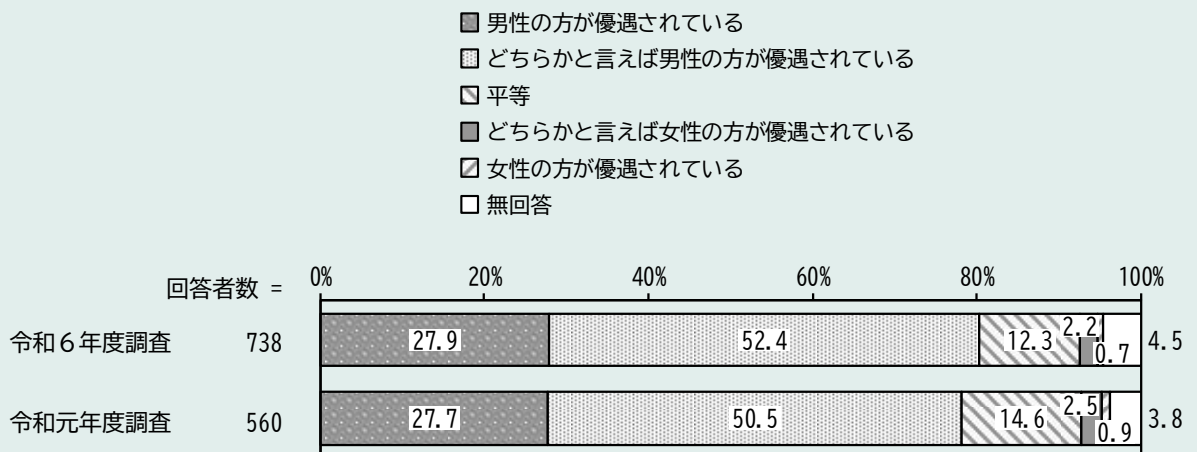
令和元年度調査に比べて、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思わない人は増加しています。また、『社会通念・習慣・しきたりなど』で「男性の方が優遇されている」と感じる割合については、令和元年度調査（78.2%）よりも増加しています。

性的マイノリティへの理解促進によりカミングアウトされた場合に変わりなく接することができる人については、「相手に寄り添って接したい」と「時間はかかっても理解に努めたい」をあわせた“できる”が68.4%と、令和元年度調査（41.3%）よりも増加しています。一方、「距離を置いてしまう」と「どうしても受け止められない」をあわせた“できない”が2.6%と、令和元年度調査（3.9%）と同程度となっています。

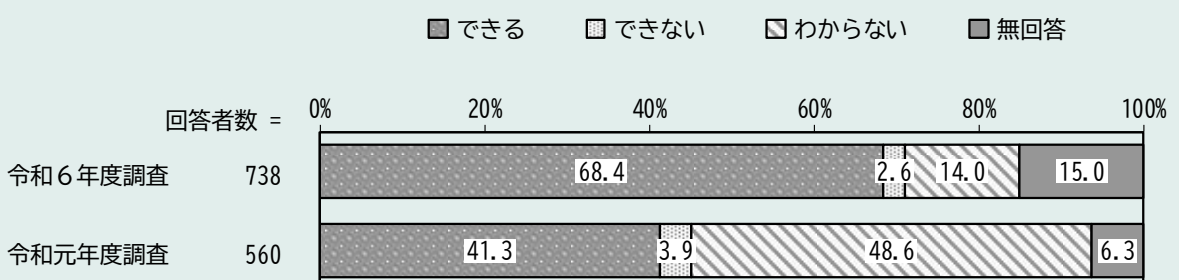
【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について】



【『社会通念・習慣・しきたりなど』で「男性の方が優遇されている」と感じる割合について】



【性的マイノリティへの理解促進によりカミングアウトされた場合に変わりなく接することができる人の割合について】



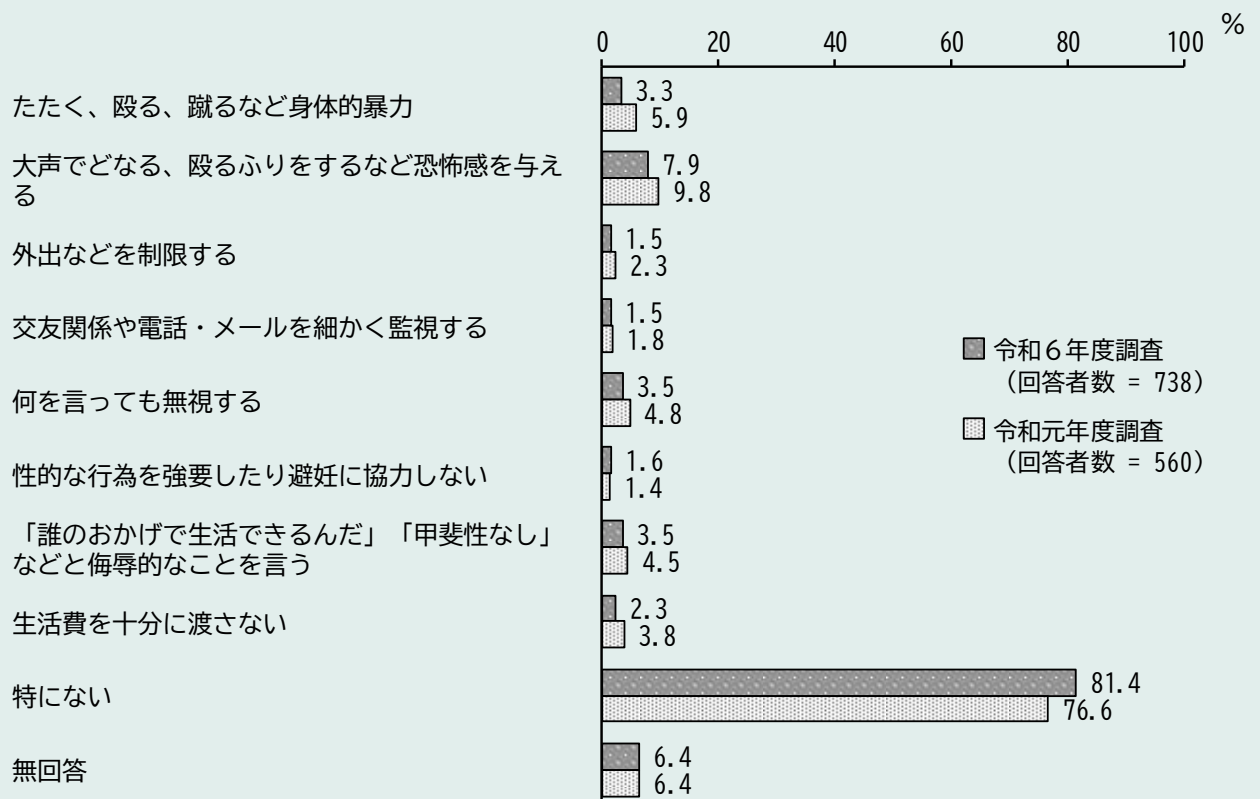
あらゆる暴力の根絶をめざす

日野市の現状

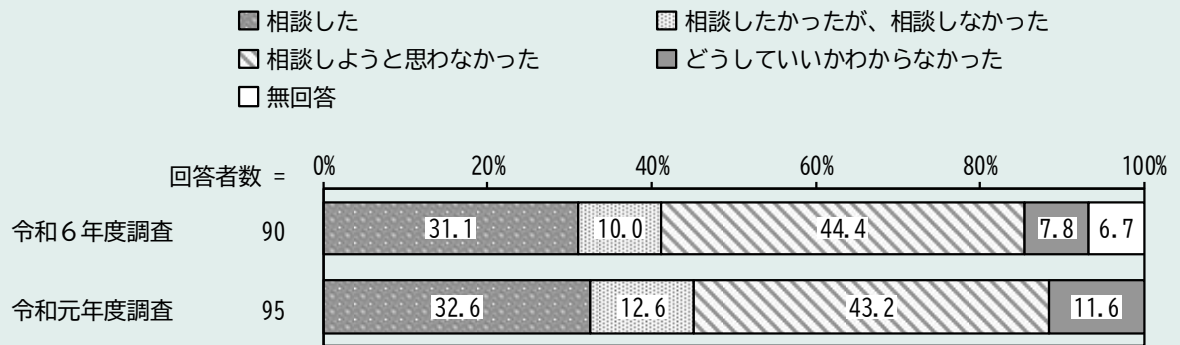
令和元年度調査に比べて、「配偶者や交際相手からの暴力の被害経験がある」と回答した人は減少しています。また、配偶者や交際相手からの暴力を相談した人の割合については減少しており、「相談しようと思わなかった」と回答した人の割合が増加しています。

ハラスメントを受けたことがある人の割合について、「権力や立場を利用した嫌がらせ（パワー・ハラスメント）」、「性的な嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）」の割合が増加しています。また、「モラル・ハラスメント」の割合は 14.0% となっており、2 番目に高い項目となっています。

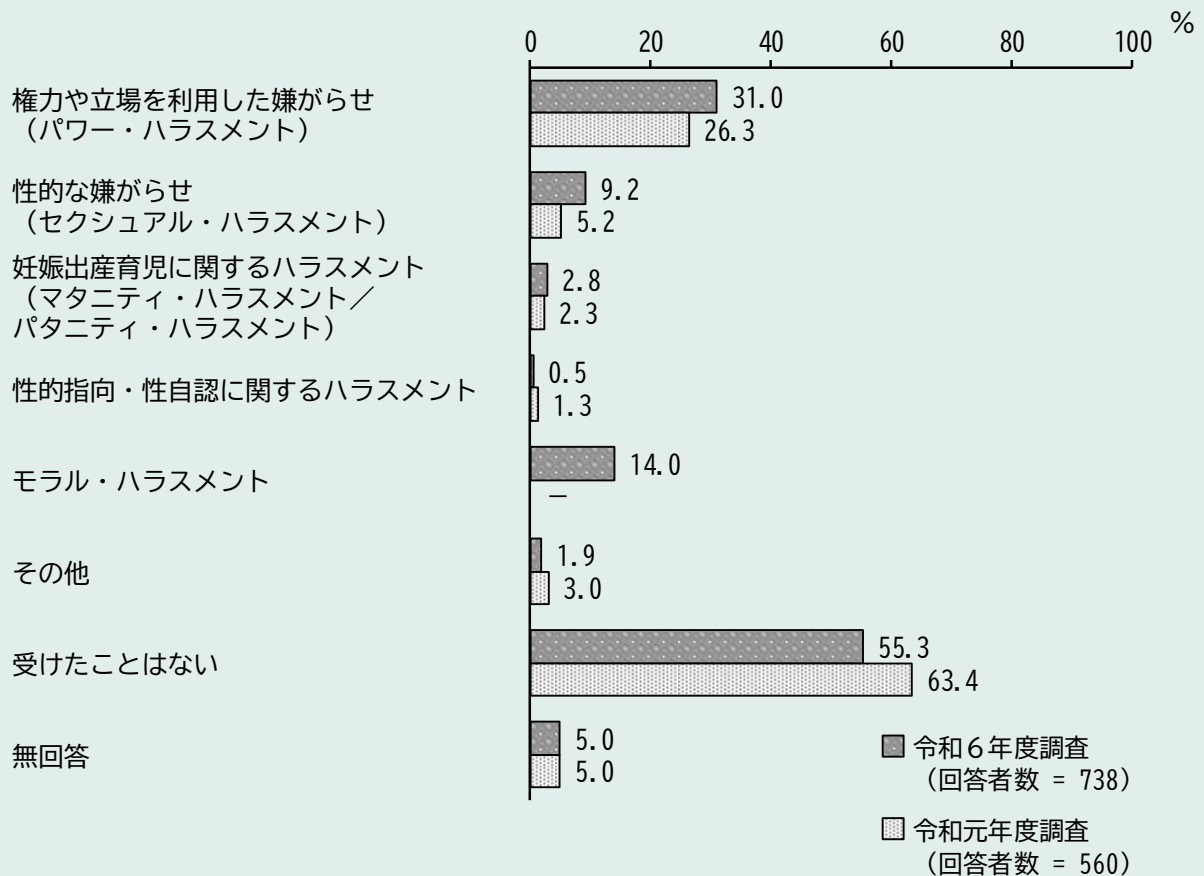
【配偶者(事実婚・パートナー)や交際相手から受けた行為】



【配偶者や交際相手からの暴力を相談した人の割合】



【ハラスメントを受けたことがある人の割合】

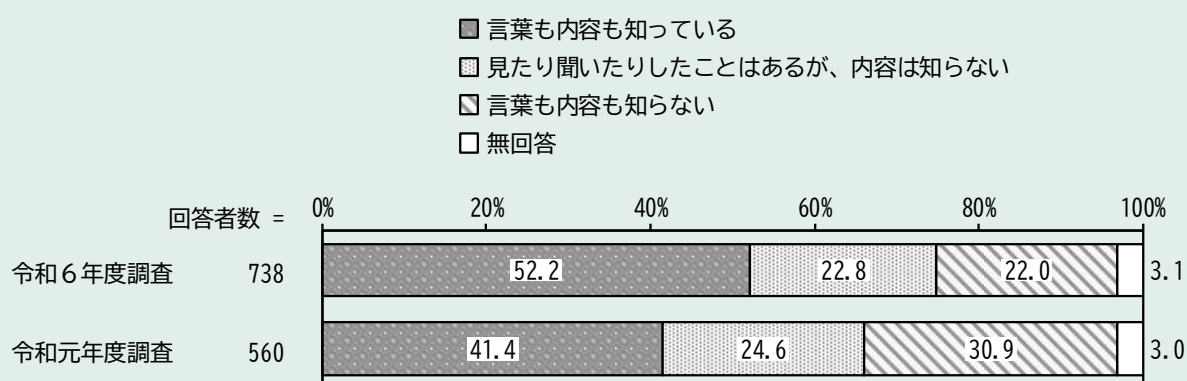


女性と男性があらゆる分野でともに参画 できる環境づくり

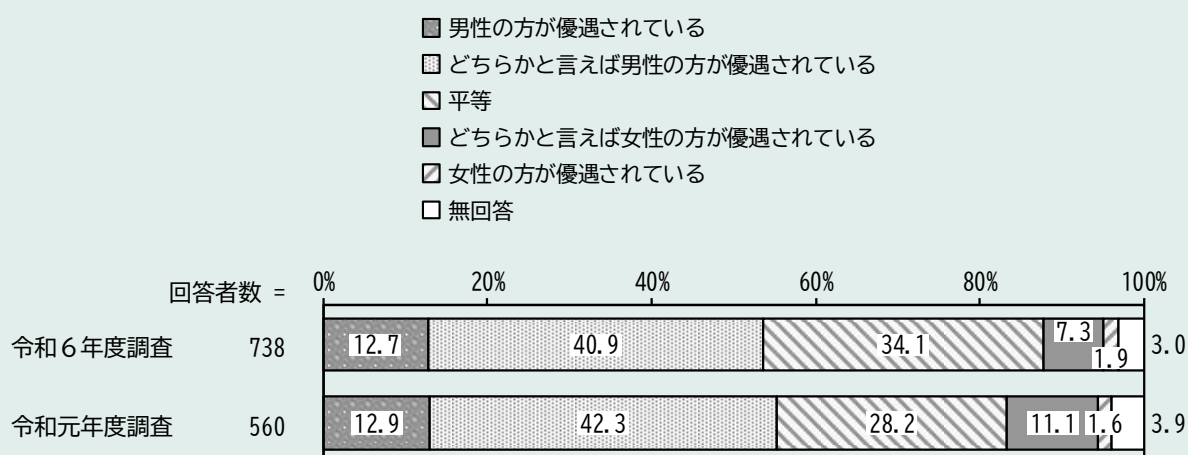
日野市の現状

ワーク・ライフ・バランスという言葉も内容も知っている人の割合について、令和元年度調査よりも増加しています。家族生活において男性の方が優遇されている、どちらかと言えば男性の方が優遇されている、どちらかと言えば女性の方が優遇されている、女性の方が優遇されているという人の割合について、令和元年度調査（55.2%）よりも減少しています。

【「ワーク・ライフ・バランス」という言葉も内容も知っている人の割合】

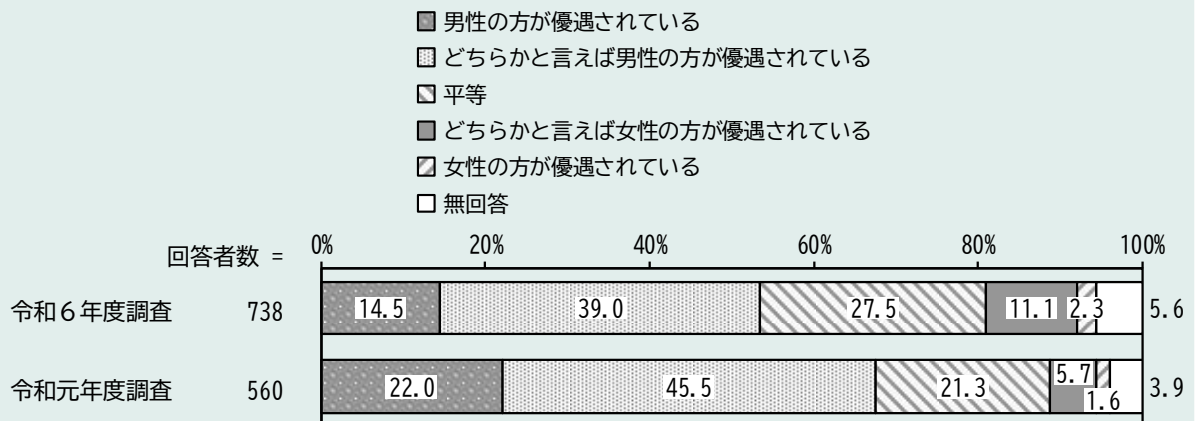


【家族生活において男性の方が優遇されている、
どちらかと言えば男性の方が優遇されていると思う人の割合】

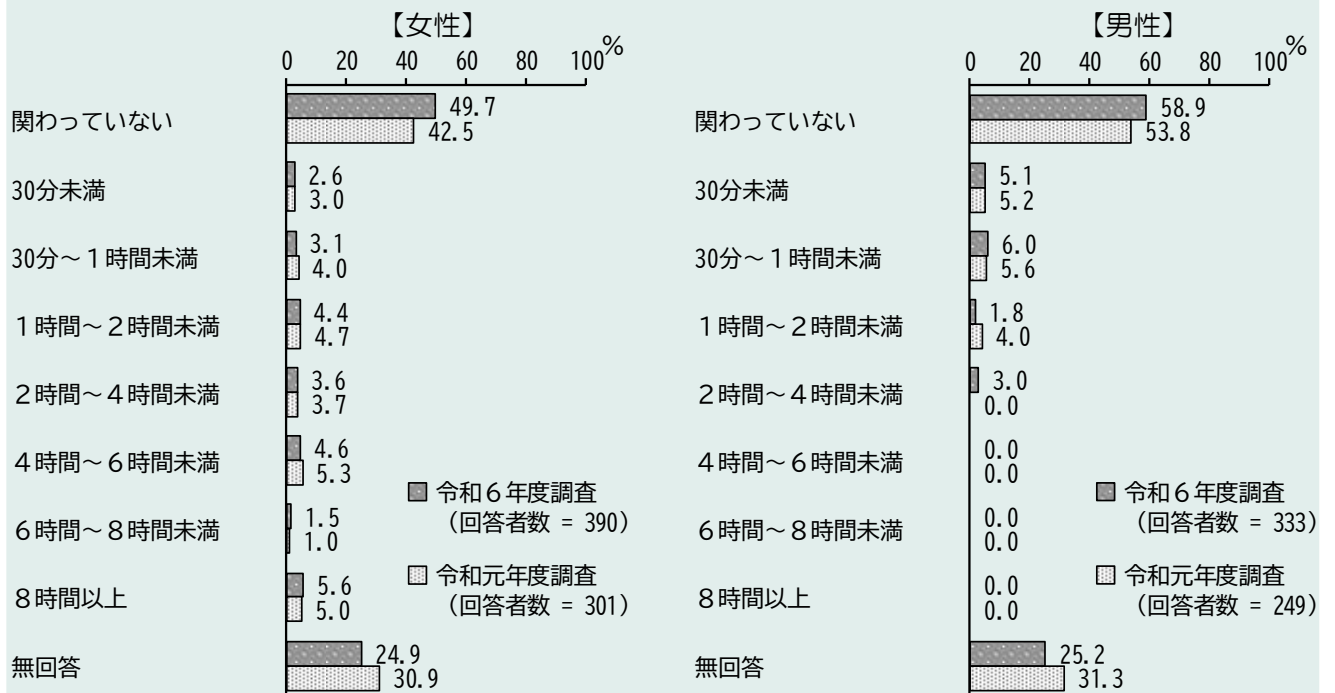


職場において男性の方が優遇されている、どちらかと言えば男性の方が優遇されていると思う人の割合について、令和元年度調査（67.5%）よりも減少しています。平日における育児に関わっていない男性の割合について、令和元年度調査よりも増加しています。

【職場において男性の方が優遇されている、
どちらかと言えば男性の方が優遇されていると思う人の割合】



【平日における育児に関わっていない男性の割合】



「仕事が忙しいから」を理由として職業以外の社会活動、地域活動に参加していない人の割合について、令和元年度調査よりも減少しています。

【「仕事が忙しいから」を理由として職業以外の社会活動、地域活動に参加していない人の割合】

